

2023年9月26日(火)

愛知県公立大学法人 愛知県立大学

担当 学術情報部 研究支援・地域連携課  
河田・三宅

電話 0561-76-8843

## 愛知県立大学 2023年度グローバル学術交流事業 言語マイノリティ:人権の拡張か、文化遺産の保護か

愛知県立大学では、グローバル人材育成を目指し、グローバル学術交流事業を実施しております。その取組のひとつである教養教育科目講義の一環として、国内外から著名な研究者をお招きし、学外にも開かれた講演会を開催しています。

今年度は、国内外の言語マイノリティについて、「人権の擁護拡張」と「文化遺産の保護継承」という二つの問題軸に沿った幅広い議論を喚起することを目的として開催する3回シリーズの講演会です。日本国内の古くからの言語マイノリティとして、アイヌ語・琉球諸語・日本手話の話者である研究者たちをお呼びして、言語使用の促進とそこにある問題について議論します。また、ヨーロッパの言語マイノリティの中でも言語的人権の議論が最も活発なカタルーニャ語の社会言語学者兼カタルーニャ自治政府言語政策局長を招聘し、世界的な問題としての視座を養うことを目指します。

スケジュールおよび各回のタイトル・講師は下記のとおりです。ぜひ多くの方々にお越しいただきたく、貴社でお取り上げくださいますようお願い申し上げます。

### <第1回> 2023年10月21日(土) 12:00~15:00

タイトル:「日本における言語マイノリティ:アイヌ語と琉球諸語の事例」

講師:【アイヌ語】北原モコットウナシ氏(北海道大学 アイヌ・先住民研究センター 教授)

【琉球語】石原昌英氏(琉球大学 国際地域創造学部 国際言語文化プログラム 教授)

### <第2回> 2023年12月2日(土) 15:00~18:00(予定)

タイトル:「ヨーロッパにおける言語マイノリティ:カタルーニャ語などの事例」

講師:【オクシタン語】ジャン=フランソワ・クロー氏

(トゥールーズ第二大学 遺産・文学・歴史学部 教授)※オンライン登壇

【カタルーニャ語】フランセスク・シャビエー・ピラ氏

(カタルーニャ自治政府言語政策局長)

### <第3回> 2023年12月16日(土) 13:00~15:00

タイトル:「世界と日本における言語マイノリティ:手話言語の事例」

講師:【日本手話を含む世界の手話言語】森壮也氏(日本貿易振興会アジア経済研究所

新領域研究センター 主任研究員)

【開催方法】対面・オンライン (Zoom ウェビナー)

【参加費】無料

【申込方法】

愛知県立大学地域連携センターWeb 申込みシステム

(<https://www.bur.aichi-pu.ac.jp/renkei/koza/0013075.html>)

【問合せ先】

愛知県立大学 学術情報部 研究支援・地域連携課

〒480-1198 愛知県長久手市茨ヶ廻間 1522-3

電話:0561-76-8843

E-mail:kenkyu@bur.aichi-pu.ac.jp



地域連携センター

Web サイト

すべての講演に  
手話通訳あり

# 言語マイノリティ： 人権の拡張か、文化遺産の保護か

本事業は、国内外の言語マイノリティについて、「人権の擁護拡張」と「文化遺産の保護継承」という二つの問題軸に沿った幅広い議論を喚起することを目的として開催する、3回シリーズの講演会です。日本国内の古くからの言語マイノリティとして、アイヌ語・琉球諸語・日本手話の話者である研究者たちをお呼びして、言語使用の促進とそこにある問題について議論します。

また、ヨーロッパの言語マイノリティの中でも言語的人権の議論が最も活発なカタルーニャ語の社会言語学者兼カタルーニャ自治政府言語政策局長を招聘し、世界的な問題としての視座を養うことを目指します。

## 第1回 日本における言語マイノリティ：アイヌ語と琉球諸語の事例

2023  
**10.21** 日 12:00-15:00

講師：北原 モコツウナシ 氏  
(北海道大学 アイヌ・先住民研究センター 教授)  
石原 昌英 氏  
(琉球大学 国際地域創造学部 国際言語文化プログラム 教授)

【アイヌ語】近代日本の領土拡張と入植により、アイヌは、言語を放棄せざるを得なくなりました。アイヌ語研究はシサム(和人/和民族)によって進められ、権利回復の運動とは乖離してきました。近年のアイヌ語普及事業も教養を目的とし、アイヌ語使用を阻む社会の問題に取り組みません。アイヌ語復興には、研究と運動に、心理的なケアを含めて構想する必要があります。

【琉球諸語】沖縄県においては消滅の危機に瀕した琉球諸語の再生を目指した活動が行われていますが危機の度合いは年々高まっています。琉球諸語は琉球文化の基盤であるので、文化継承には言語継承が不可欠であると言われることがありますが、それよりも根本的な理由があります。言語権を含めことばをめぐる権利の追求としての言語再生です。

## 第2回 ヨーロッパにおける言語マイノリティ：カタルーニャ語などの事例

逐次通訳あり

2023  
**12.2** 日 15:00-18:00(予定)

講師：フランセスク・シャビエー・ピラ 氏 ほか  
(カタルーニャ自治政府言語政策局長)

社会言語学者から初めてカタルーニャ自治政府言語政策局長になったピラ氏が、社会言語学者と言語政策局長の両者の視点から、若者の間でのカタルーニャ語使用率の減少など、現在カタルーニャ語が直面している諸課題について、どのように考え、どのような政策を実施し、どのような成果が得られているのか、などについて語ります。

## 第3回 世界と日本における言語マイノリティ：手話言語の事例

2023  
**12.16** 日 13:00-15:00

講師：森 壮也 氏  
(日本貿易振興会アジア経済研究所 新領域研究センター 主任研究員)

マイノリティ言語としての手話に関していうと「ろう児の言語権についての立場表明書」(WFD, 2016)では、権利と文化の問題は、国連の障害者権利条約同様、選択の問題ではなく、共に実現されなければならない問題とされています。このことも念頭におきながら、日本と世界で手話がどのような言語であるのかについて、ごく最近、日本と東アフリカのウガンダで行った二つの研究の成果をご紹介しますと考えています。

対面(120名)・オンライン(500名)

全講演に手話通訳あり

会場：愛知県立大学長久手キャンパス  
学術文化交流センター地下1階 多目的ホール  
[東部丘陵線(リニモ)「愛・地球博記念公園」駅下車徒歩5分]

愛知県立大学WEBサイトより  
お申込みください。

※右のQRコードからアクセス可

<https://www.bur.aichi-pu.ac.jp/renkei/koza/0013075.html>



主催 愛知県立大学 学術研究情報センター

お問合せ 学術情報部 研究支援・地域連携課 メール: [kenkyu@bur.aichi-pu.ac.jp](mailto:kenkyu@bur.aichi-pu.ac.jp)